

# 感染管理ベストプラクティス

## 環境整備（災害時）

		準備			処置									終了後					
電気	水	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
○	○																		
×	○																		
○	×																		
×	×																		
		手指衛生	必要物品の準備	ハリアプレコーション	未滅菌手袋をつける	窓の開放	ダスターによる粉塵対策	クロスによる湿式清掃	高頻度接触部位の湿式清掃	電源が取れる場合は、掃除機による集塵	水を使用し粉塵が舞わない様に拭く	換気終了後窓を閉じる	使用物品の廃棄	手指衛生	未滅菌手袋の着用	清掃用具の浄化	使用物品の廃棄	玄関マットを置く	手指衛生

### ベストプラクティス：問題解決のための優れた実践例

**赤字：**EBMに基づき強く推奨されているところ

注）本事例集は2011年3月11日発生した東日本大震災で被災された東北地方の方々を中心に2013年に作成されたものです。今回一般社団法人感染管理ベストプラクティス研究会では、迅速性を優先し、内容に大きな変更はしておりません。また災害の状況も異なることが予想されるため現状と合わない部分もあるかと思いますが、ご了承ください。  
2024年1月11日 一般社団法人 感染管理ベストプラクティス研究会 代表理事 藤田直久

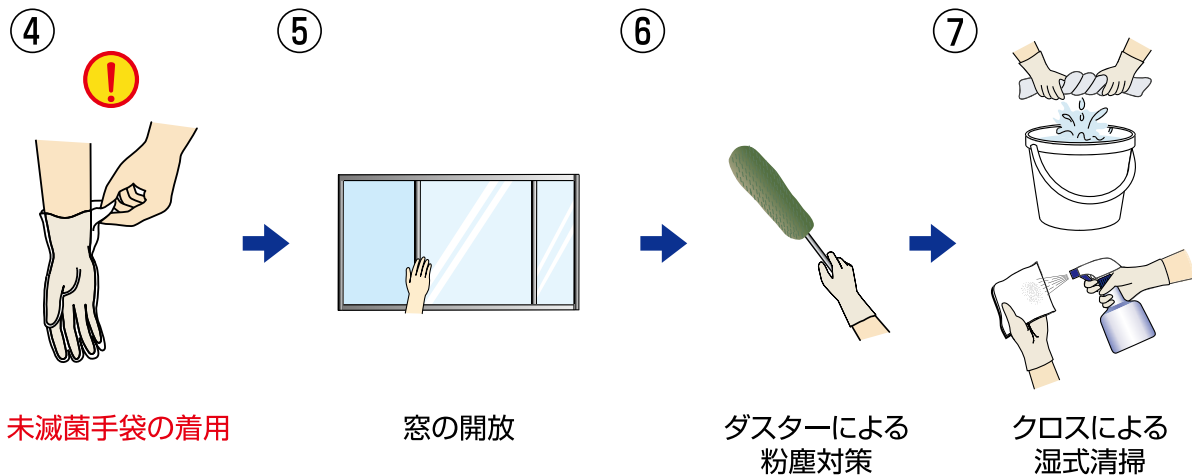
# 感染管理ベストプラクティス

## 環境整備（通常時）

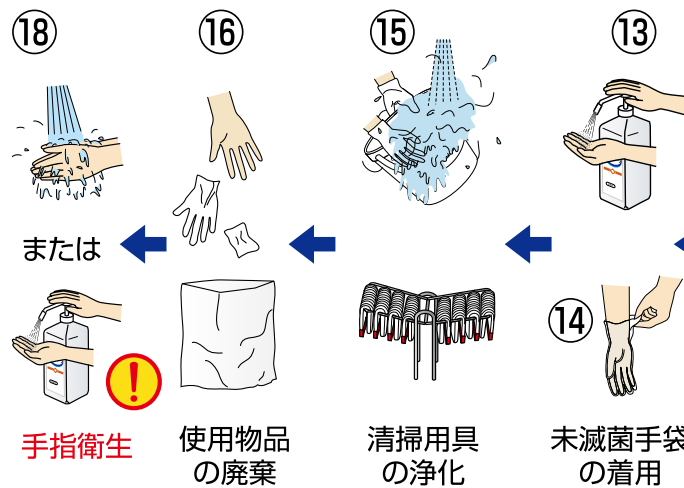
### 準備



### 処置(又は項目名入力)



### 終了後

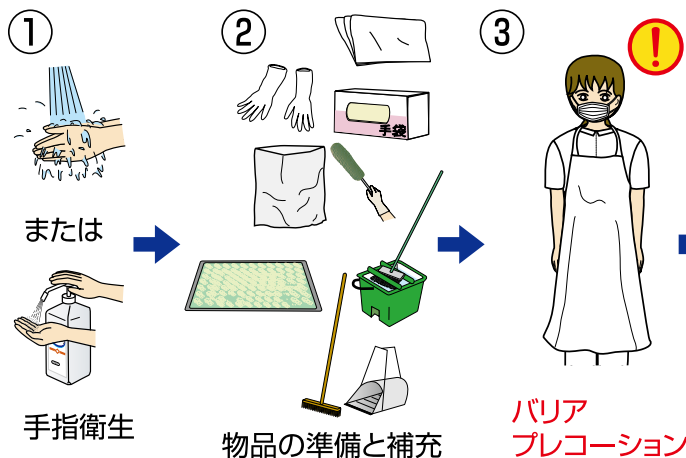


ベストプラクティス：問題解決のための優れた実践例

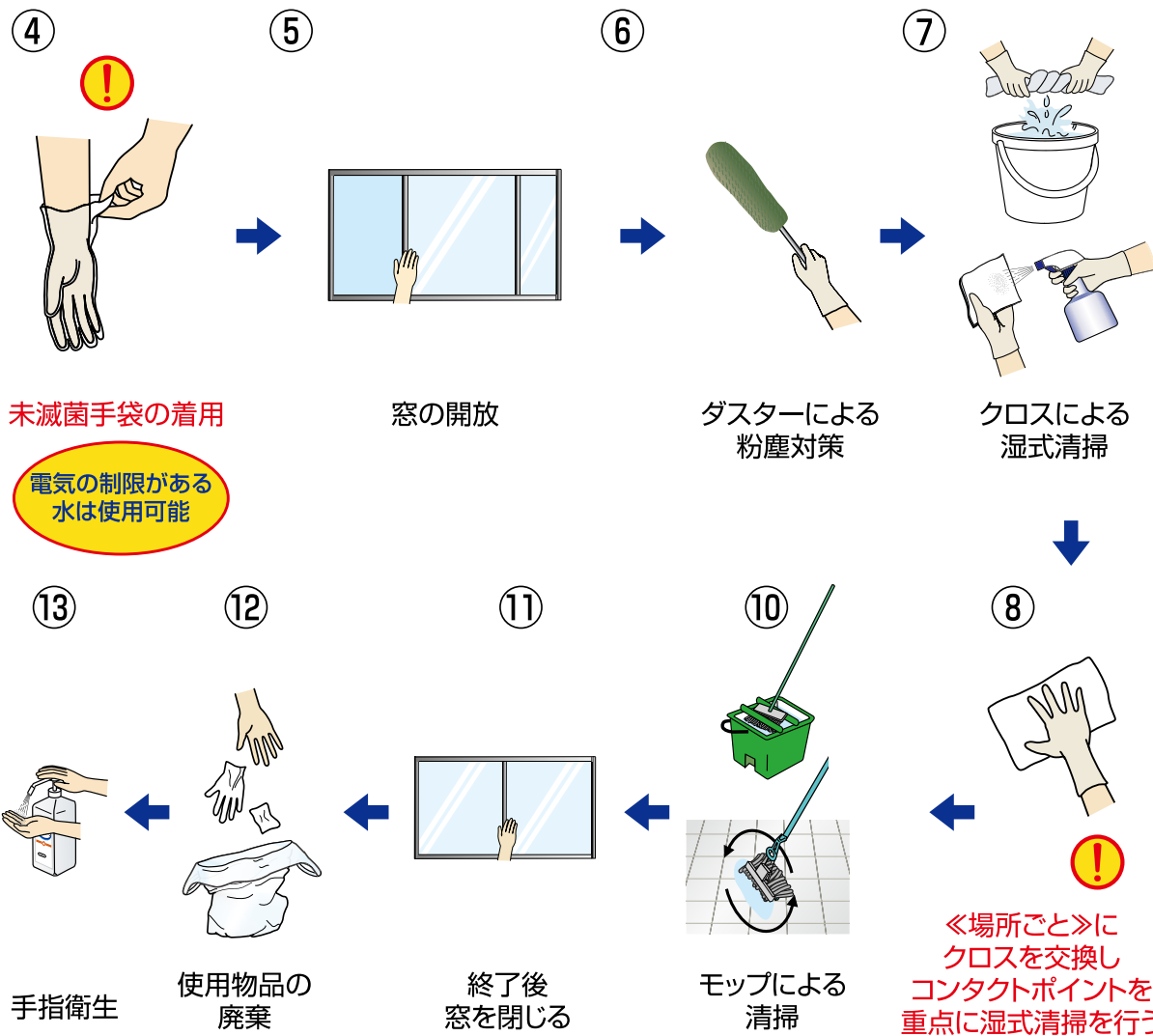
❗ 赤字：EBMに基づき強く推奨されているところ

注) 本事例集は2011年3月11日発生した東日本大震災で被災された東北地方の方々を中心に2013年に作成されたものです。今回一般社団法人感染管理ベストプラクティス研究会では、迅速性を優先し、内容に大きな変更はしておりません。また災害の状況も異なるため現状と合わない部分もあるかと思いますが、ご了承ください。  
2024年1月11日 一般社団法人 感染管理ベストプラクティス研究会 代表理事 藤田直久

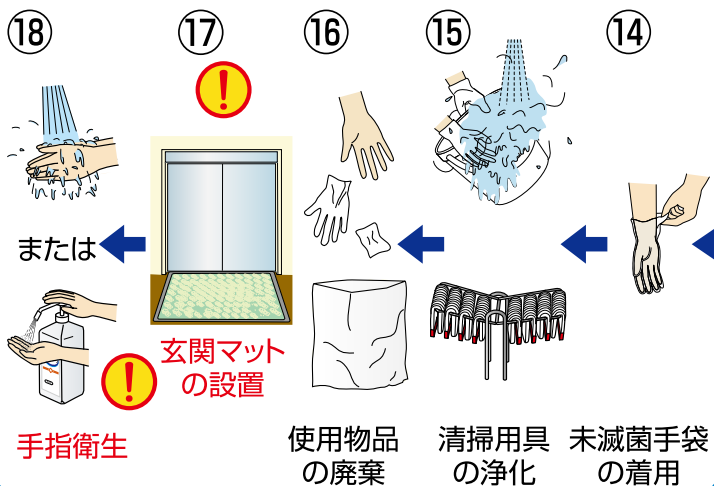
### 準備



### 処置(又は項目名入力)



### 終了後

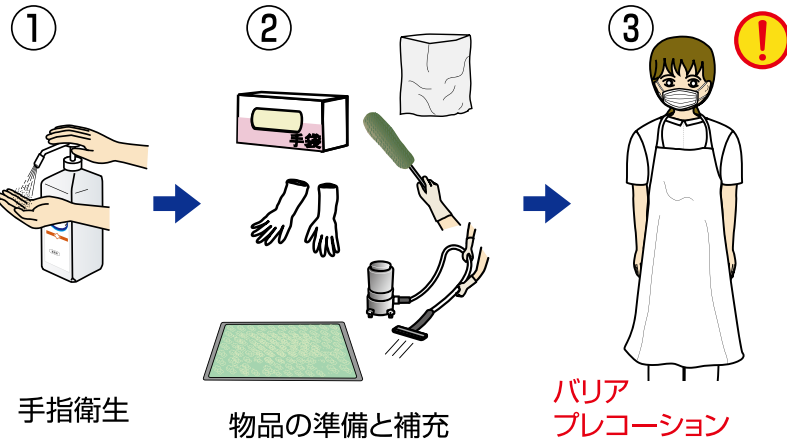


ベストプラクティス：問題解決のための優れた実践例

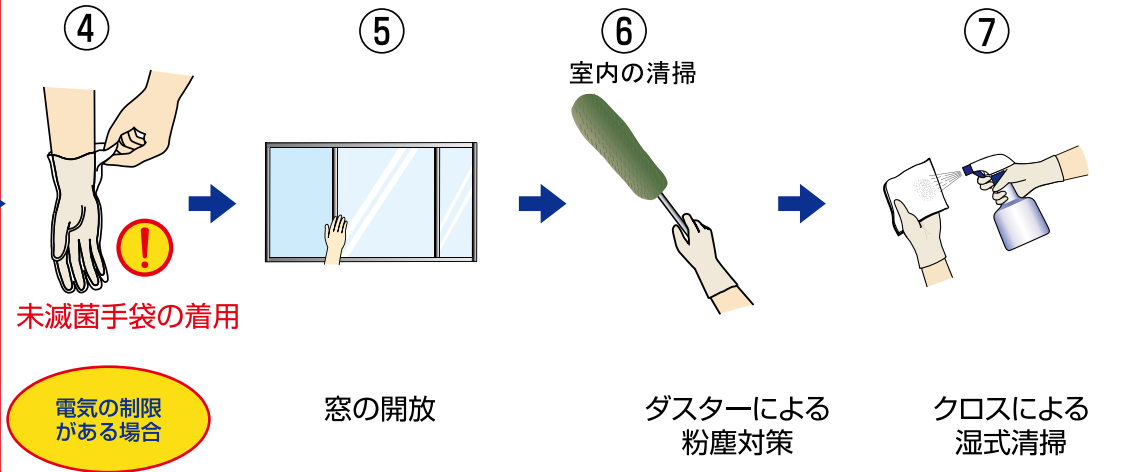
❗ 赤字：EBMに基づき強く推奨されているところ

注) 本事例集は2011年3月11日発生した東日本大震災で被災された東北地方の方々を中心に2013年に作成されたものです。今回一般社団法人感染管理ベストプラクティス研究会では、迅速性を優先し、内容に大きな変更はしていません。また災害の状況も異なることが予想されるため現状と合わない部分もあるかと思いますが、ご了承ください。  
2024年1月11日 一般社団法人 感染管理ベストプラクティス研究会 代表理事 藤田直久

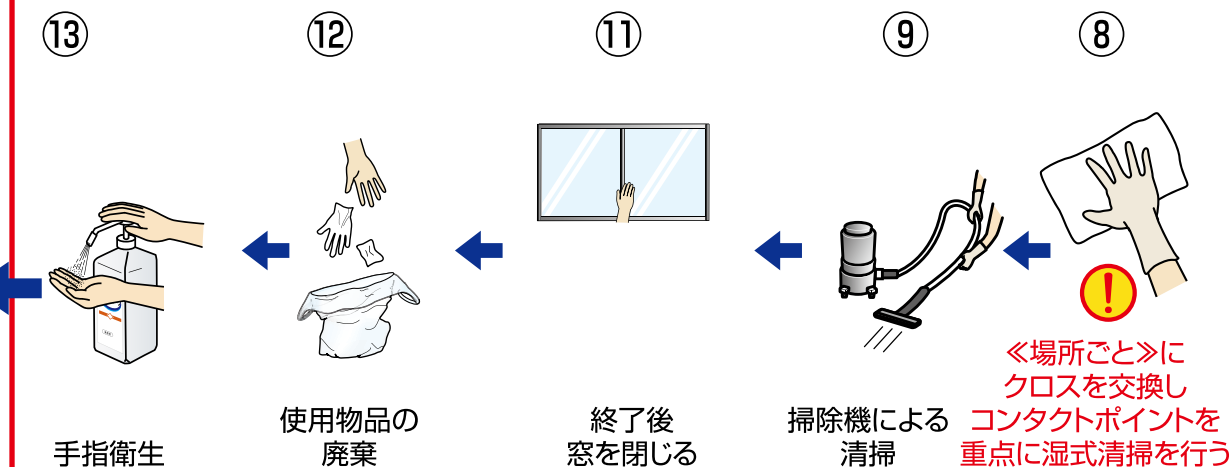
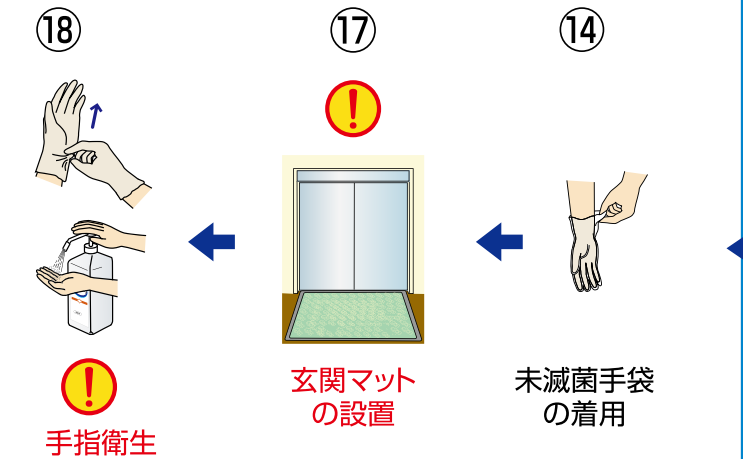
準備



処置(又は項目名入力)



終了後

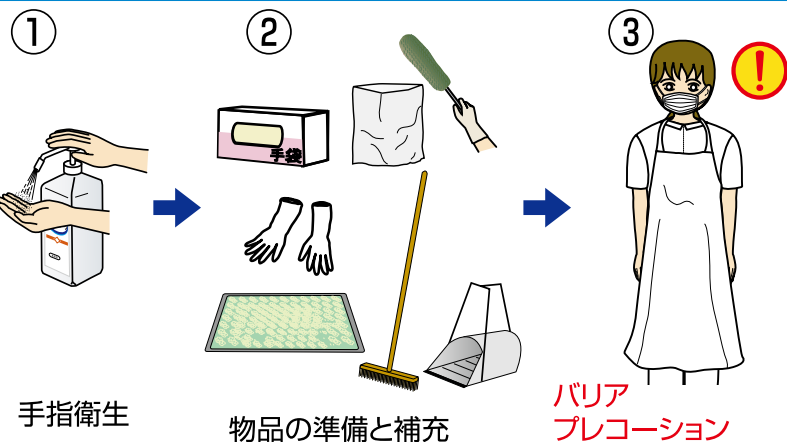


ベストプラクティス：問題解決のための優れた実践例

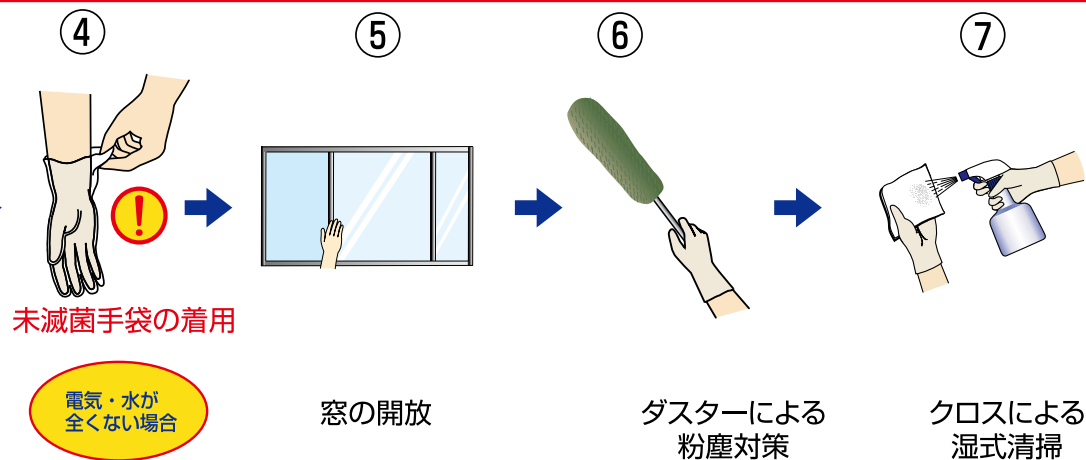
❗ 赤文字：EBMに基づき強く推奨されているところ

注）本事例集は2011年3月11日発生した東日本大震災で被災された東北地方の方々を中心に2013年に作成されたものです。今回一般社団法人感染管理ベストプラクティス研究会では、迅速性を優先し、内容に大きな変更はしていません。また災害の状況も異なることが予想されるため現状と合わない部分もあるかと思いますが、ご了承ください。  
2024年1月11日 一般社団法人 感染管理ベストプラクティス研究会 代表理事 藤田直久

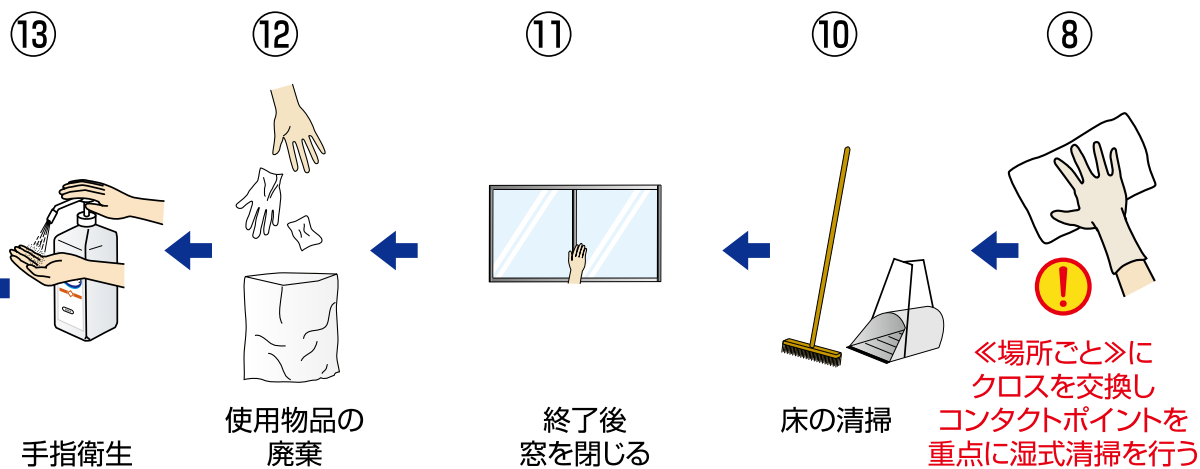
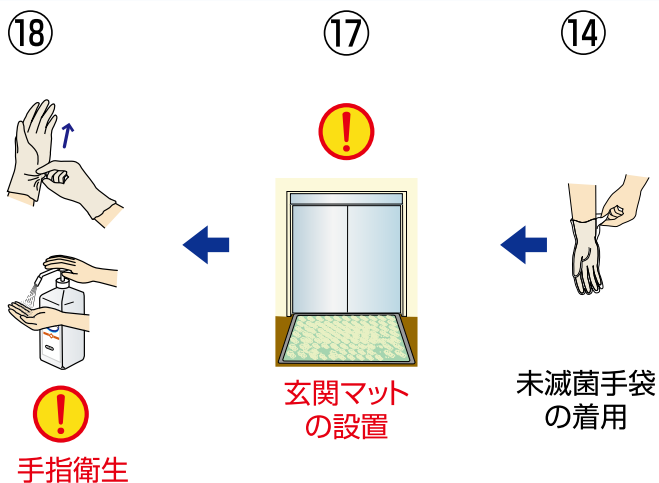
準備



処置(又は項目名入力)



終了後



ベストプラクティス：問題解決のための優れた実践例

❗ 赤字：EBMに基づき強く推奨されているところ

注）本事例集は2011年3月11日発生した東日本大震災で被災された東北地方の方々を中心に2013年に作成されたものです。今回一般社団法人感染管理ベストプラクティス研究会では、迅速性を優先し、内容に大きな変更はしておりません。また災害の状況も異なることが予想されるため現状と合わない部分もあるかと思いますが、ご了承ください。  
2024年1月11日 一般社団法人 感染管理ベストプラクティス研究会 代表理事 藤田直久

# 感染管理 チェックリスト(災害時の清掃)

・環境から伝播の恐れがある病原体  
 ・環境の常在菌  
 ・限られた資源での環境清掃

## 環境整備(災害時)

手順	感染管理のポイント	チェック	理由
1	手指衛生	察式アルコール製剤または手指洗剤と流水で手指衛生を行う。	・手指の汚染レベルを下げるにより交差感染のリスクを低減する。 ・前作業からの手指汚染を断ち切る。
2	必要物品の準備と補充	清拭用カート、クロス等の専用キットを準備する。	・環境清掃用に準備することで汚染物の拡大を避ける。
3	バリアプレコーション	手袋、マスク、エプロンの着用による身体の保護。	・災害時における微生物からの汚染を受けないようにする。 ・清掃実施者の保護。
4	未滅菌手袋の着用	作業開始時に未滅菌手袋を着用する。	・災害時における微生物からの汚染を受けないようにする。 ・清掃実施者の保護。
5	窓の開放	空調の流れを確保する。	・閉鎖された空間の空気清浄度の汚染拡大を避ける。
6	ダスターによる粉塵除去	室内の上部より粉塵を除去する。	・粉塵によるごみの浮遊上状況。
7	クロスによる湿式清掃	・高頻度接触部位(コンタクトポイント)の湿式清掃を行う。 ・クロスは、使用後廃棄処分とする。	・高頻度接触部位の接触感染伝播を避け汚染拡大を低減させる。 ・コンタクトポイントは、同一箇所が終わったらクロスの交換を行い交差感染のリスクを避ける。 ・汚染されたクロスで菌が増殖し、環境表面へ一般細菌、病原菌が伝播することを防ぐ。
8			
9	掃除機による清掃	汚染箇所は、目にみえる粉塵がなくなるまで掃除機をかける。	・床からの粉塵防止のために掃除機による清掃を行う。
10	モップによる清掃	汚染箇所は、目にみえる汚染がなくなるまで拭き取る。	・床からの粉塵防止のためにモップによる湿式清掃を行う。
11	窓を閉じる	空中の粉塵がなくなったら窓を閉じる。	・室内清掃後の空気清浄を保つ。
12	使用物品の廃棄	・作業終了後は、使用した備品を廃棄する。 ・使用後の汚染物の洗浄と次の使用までに乾燥させる。	・使用した備品は適切に処理されないと再汚染をする可能性があるため。 ・使用した備品からの汚染物から環境・設備への汚染拡散を防止する。
13	手指衛生	手袋などのPPEを汚染拡大しないように外し手指消毒、手洗いをを行う。	・手袋にはピンホールがある可能性があり使用中にも敗れている可能性があるため、手袋を外す際には、再汚染しないようにする。 ・手袋を外したあとは汚染を除去する
14	未滅菌手袋の着用	作業終了後に用具の洗浄のため未滅菌手袋を着用する。	・災害時における微生物からの汚染を受けないようにする。 ・清掃実施者の保護。
15	清掃用具の浄化	・清掃カートや清掃用具の埃や汚れを除去し清潔に保管する。 ・水が使用可能な時は、モップを洗浄し完全に乾燥させる。	・使用した備品は適切に処理されないと再汚染をする可能性があるため、適切に洗浄し乾燥させる。
16	使用物品の廃棄	作業終了後は、使用した備品を廃棄する。	・使用した備品は適切に処理されないと再汚染をする可能性があるため。
17	玄関マットの設置	入口の粉塵流入を避ける。	・災害時の清掃には、清掃まで人的配置が困難な状況になり得るときがあるため、できるだけ建物の入口で粉塵の流入を阻止することが必要である。
18	手指衛生	手袋などのPPEを汚染拡大しないように外し手指消毒、手洗いをを行う。	・手袋にはピンホールがある可能性があり使用中にも敗れている可能性があるため、手袋を外す際には、再汚染しないようにする。 ・手袋を外したあとは汚染を除去する。

### 参考文献

- 1) CDC:医療現場における隔離予防策のためのガイドライン(2007)
- 2) CDC:医療現場における環境管理のためのガイドライン(2003)

注) 本事例集は2011年3月11日発生した東日本大震災で被災された東北地方の方々を中心に2013年に作成されたものです。今回一般社団法人感染管理ベストプラクティス研究会では、迅速性を優先し、内容に大きな変更はしていません。また災害の状況も異なることが予想されるため現状と合わない部分もあるかと思いますが、ご了承ください。  
 2024年1月11日 一般社団法人 感染管理ベストプラクティス研究会 代表理事 藤田直久

## 環境整備(災害時)

手順	潜在的危険 (危害を及ぼすであろう現象)	重要度の判断根拠 (ガイドラインや文献等)	感染管理 重要度	潜在的危険の 発生要因	防止措置
0	工程全体	・環境汚染による感染症 ・空気感染の細菌:レジオネラ菌 ・環境の常在菌:霊菌、MRSA、緑膿菌、カンジダ菌		・環境衛生保全の不備から細菌の増殖があった場合、菌量、菌濃度の増加と共に感染リスクが高くなる。	・手指衛生の遵守。 ・病院環境の整理、整頓、清掃を保持を行う。
1	手指衛生	・手指衛生から清掃用具、備品等への一般細菌類、病原菌を伝播させる。		・前行程において、手指が異物、一般細菌および病原菌が汚染されている可能性がある。	・速乾性手指消毒剤または手指洗浄剤と流水で手洗いを行う。
2	物品の準備と補充	・汚染された物品から、手指や使用部位へ一般細菌、病原菌が伝播する。		・汚染された手指、手袋で備品を取り扱う。	・清潔な手指で備品を取り扱う。
3	バリアプレコーション	・環境に付着した細菌、湿性生体物質による実施者の手指が汚染される。 ・実施者の手を介して環境に付着した細菌が他の環境に伝播する。	重要	・手指が汚れた環境に直接触れる。 ・清浄剤による手指が暴露される。	・清掃用PPEの着用をする。
4	未滅菌手袋の着用	・実施者の手を介して環境に付着した細菌が他の環境に伝播する。	重要	・手指が汚れた環境に直接触れる。 ・清浄剤による手指が暴露される。	・清掃用手袋の着用をする。
5	窓の開放	・清掃場所の airflow を調整し空気清浄度を保つ。 ・空気中に菌や埃を拡散させる可能性がある。		・埃や菌を室内にまき散らさないようにする。	・周辺環境からの粉塵が舞わないように airflow を確保する。
6	ダスターによる粉塵対策	・粉塵の浮遊による感染のリスク。		・埃をたてず菌を室内にまき散らさないようするため、ダスターによる埃の吸着を図る。	・汚染、病原体の浮遊を避ける。 ・室内の上部より清掃し足元の順序で実施する。
7	クロスによる湿式清掃	・病原体、汚染の程度を少なくする。	重要	・頻繁に手指が触れる所は、汚染されている可能性が高い。 ・汚染されたクロスが続けて使用することにより、他所へ汚染を拡散させる。 ・不適切な手順による埃や汚れの飛散と残存。	・適切な手順で行い汚れを十分に除去する。 ・環境用除菌剤をスプレー又は清拭クロスを使用する。 ・一部屋もしくは一患者ごとにクロスを替える。
8		・接触頻度の高いコンタクトポイントを清掃する。	重要		
9	掃除機による清掃	・粉塵の浮遊による感染のリスク。		・汚染箇所は、目にみえる粉塵がなくなるまで掃除機をかける。	
10	モップによる清掃	・汚れた水での清掃は汚染を拡大する。		・不適切な洗浄剤や手順による埃や汚れの飛散や残存。 ・汚染されたモップの使用。	・除菌洗浄剤に浸し、きつく絞ってモップをセットする。 ・掃除機をかけた床から、また室内の奥から手前に向かって清掃する。
11	窓を閉じる	・空気の airflow から空気。		・埃の残存による換気。	・室内清掃後の空気清浄を保つ。
12	使用物品の廃棄	・作業終了後は、使用した備品を廃棄する。		・汚染した物品から環境、設備へ汚染が拡散する。	・作業後の手袋は、手袋の表面に触れないように脱ぎ廃棄する。
13	手指衛生	・手袋などのPPEを汚染拡大しないように外し手指消毒、手洗いを行う。		・手袋にはピンホールがある可能性があり使用中にも敗れている可能性があるため、手袋を外す際には、再汚染しないようにする。 ・手袋を外したあとは汚染を除去する。	・速乾性手指消毒剤または手指洗浄剤と流水で手洗いを行う。
14	未滅菌手袋の着用	・作業終了後に用具の洗浄のため未滅菌手袋を着用する。		・災害時における微生物からの汚染を受けないようにする。 ・清掃実施者の保護。	・実施者自身の手指の保護。

注) 本事例集は2011年3月11日発生した東日本大震災で被災された東北地方の方々を中心に2013年に作成されたものです。今回一般社団法人感染管理ベストプラクティス研究会では、迅速性を優先し、内容に大きな変更はしておりません。また災害の状況も異なることが予想されるため現状と合わない部分もありますが、ご了承ください。  
2024年1月11日 一般社団法人 感染管理ベストプラクティス研究会 代表理事 藤田直久

## 環境整備(災害時)

手順		潜在的危険 (危害を及ぼすであろう現象)	重要度の判断根拠 (ガイドラインや文献等)	感染管理 重要度	潜在的危険の 発生要因	防止措置
15	清掃用具の浄化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湿潤状態で放置すると、細菌が増殖して汚染の原因になる。</li> <li>・湿ったままのモップを使用すると菌を再度床に塗りつけてしまう可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モップは、次亜塩素酸ナトリウム溶液で消毒し、除菌洗浄後に乾燥させる。</li> <li>・湿ったままの放置は菌を増殖させる。</li> <li>・床の清掃には、汚れたモップを何度も使用すると汚染の拡大につながるため、清掃用具を清潔に使用する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・汚れたまま清掃用具を放置する。</li> <li>・水濡れしたままモップなどを保管する。</li> <li>・モップに残存した細菌が増殖し、接触した時の伝播の可能性が高くなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モップを洗浄し完全に乾燥させる。</li> <li>・清掃カートや清掃用具の埃や汚れを除去し清潔に保管する。</li> </ul>
16	使用物品の廃棄	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業終了後は、使用した備品を廃棄する。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用した物品の放置による汚染した物品から環境・設備へ汚染が拡大する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未滅菌手袋の表面に触れないように脱ぎ、廃棄する。</li> </ul>
17	玄関マットの設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埃や汚泥による空気清浄度の悪化。</li> </ul>		重要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埃や汚泥による粉塵の浮遊や汚れの飛散と残存。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物の入り口に設置することで外からの粉塵や汚泥を低減することができる。</li> </ul>
18	手指衛生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・汚い手のままでドア等に触らない。</li> <li>・汚染された手を介してほかの患者や環境が汚染してしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手袋をした手指で不用意な部位を触らない。</li> <li>・清掃後は必ず手指衛生を行う。</li> </ul>	重要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・汚染された手で環境表面に触れる。</li> <li>・手袋を外す時に手袋表面に触れる可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未滅菌手袋の表面に触れないように脱ぎ、手指洗浄剤を用いて手洗いを行う。</li> </ul>

### 参考文献

- 1) CDC:医療現場における隔離予防策のためのガイドライン(2007)
- 2) CDC:医療現場における環境管理のためのガイドライン(2003)

注) 本事例集は2011年3月11日発生した東日本大震災で被災された東北地方の方々を中心に2013年に作成されたものです。今回一般社団法人感染管理ベストプラクティス研究会では、迅速性を優先し、内容に大きな変更はしておりません。また災害の状況も異なることが予想されるため現状と合わない部分もあるかと思いますが、ご了承ください。  
2024年1月11日 一般社団法人 感染管理ベストプラクティス研究会 代表理事 藤田直久